

この検査データを読めますか?—検査値から病態を探る

序

たかぎ やすし
高木 康*

R-CPC(reverse clinico-pathological conference)が河合忠博士(元自治医科大学教授, 元臨床病理学会会長)によりわが国に導入されたのは1970年代です。臨床検査データから遡って病態を判読するこの手法は瞬く間に臨床検査医学(当時は臨床病理学)の卒前教育に取り入れられ, 極めて有効な教育技法として全国に広がり, 現在では多くの医学部ばかりでなく, 臨床検査技師教育にも利用されています。R-CPCでは個々の検査データのもつ意味を解釈して, 多くの検査データを総合的に判断して最終的な病態を推測しますが, 多くは1回の検査データから病態を判読することが行われています。しかし, 検査データは病態・病期により刻々と変動するため, 症例での検査データの変動・推移は検査データを解釈するうえで極めて重要になります。

本特集号は, 本誌『検査と技術』通常号の「疾患と検査値の推移」欄にこれまで掲載された論文が主な土台となっており, これを<症例の提示><初診時の検査データ><病態の解説><臨床検査データの変動>の順で改変したものです。

「この検査データを読めますか?」のタイトルのように, まずは提示された症例の検査データから症例の病態を考えてください。そして, 推定された病態・疾患の解説と関連する検査の解説から病態・疾患の整理をしてください。最後に, 提示された症例の検査データの変動・推移により, 病期による検査データを知り, 病態と検査データの関係をより深く理解してください。これらにより副テーマのように“検査値から病態を探る”ことができます。

本特集号に収録した病態・疾患は全53編であり, 通常号に未収録の19編を新たに加えました。これらは日常遭遇する病態・疾患で, 検査データとの関連を十分知っておくべき病態・疾患と考えたからです。

本特集号は臨床検査技師ばかりでなく, 技師学生, 医学生, 研修医, 看護師, 薬剤師など多くの医療人に広く活用していただき, 病態・疾患診断における臨床検査の重要性・有用性について再確認していただければ幸いです。

* 昭和大学医学部医学教育推進室 ☎142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8